

# 2019年度第2四半期決算 電話会議 資料

2019年11月19日（火）

立ちどまらない保険。

**MS&AD**

INSURANCE GROUP

## 本日のポイント

### 2019年度第2四半期 業績

(トップライン)

- ・ 正味収入保険料は、前年同期比2.7%（508億円）の増収となり、引き続き好調。

(ボトムライン)

- ・ 中間純利益は1,172億円の増益。国内損保子会社は、国内自然災害ロスが年初予想を上回ったものの、前年同期比では減少となったことなどから629億円の増益。海外保険子会社も、資産運用が好調だったMS Amlinを主因に146億円の増益。

### 2019年度 業績予想

- ・ 当期純利益は、年初予想から変わらず2,000億円。
- ・ グループ修正利益は、国内自然災害増加による負担増を主因に年初予想比△430億円の2,200億円。

### 2019年度の株主還元

- ・ 年初予想どおり中間配当75円（前期比5円増配、年間配当150円：前期比10円増配）、自己株式取得200億円の実施を決定。

## 全体目次

### 2019年度第2四半期決算の概要

グループ連結	P5-12
国内損害保険会社	P13-15
国内生命保険会社	P16-17
海外保険子会社	P18
MSの海外事業の組織再編	P19-20
（参考）国内損害保険会社主要 2 社の業績概要	P21-23
（参考）MS Amlin 業績概要	P25-26
（参考）ESRの状況	P27

### 2019年度業績予想

グループ連結	P29-33
今回業績予想の主な前提	P34
国内損害保険会社	P35-36
国内生命保険会社	P37-38
海外保険子会社	P39-40
（参考）国内損保会社主要 2 社の概要	P41-42

※決算データにつきましては、当社ホームページに掲載しています「国内損保決算データ集(Excelファイル)」もご参照ください。

## 2019年度第2四半期決算の概要

損保子会社

(億円)

	2018年度 第2四半期	2019年度 第2四半期	増収率	
			前年同期比	増収率
元受正味保険料(除く収入積立保険料)※	19,409	<b>19,997</b>	588	3.0%
正味収入保険料※	18,760	<b>19,268</b>	508	2.7%
三井住友海上	7,774	<b>8,033</b>	259	3.3%
あいおいニッセイ同和損保	6,238	<b>6,568</b>	329	5.3%
三井ダイレクト損保	182	<b>179</b>	△ 3	△ 1.9%
海外保険子会社	4,546	<b>4,478</b>	△ 67	△ 1.5%

※ 自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

生保子会社

(億円)

	2018年度 第2四半期	2019年度 第2四半期	増収率	
			前年同期比	増収率
保険料(グロス収入保険料)※	8,105	<b>7,332</b>	△ 772	△ 9.5%
三井住友海上あいおい生命	2,474	<b>2,579</b>	104	4.2%
三井住友海上プライマリー生命	5,630	<b>4,753</b>	△ 877	△ 15.6%
生命保険料	6,571	<b>5,554</b>	△ 1,016	△ 15.5%

※ 保険料(グロス収入保険料)は国内生保子会社のみ

グループ連結(2019年度第2四半期)①業績の概要 1(トップライン)

(損保子会社[国内・海外])

- ・正味収入保険料は508億円、2.7%の増収。海外保険子会社は為替影響(△179億円)を主因に減収(△67億円)となったが、国内損保子会社の増収(576億円)が寄与。
- ・国内損保主要2社の正味収入保険料は、589億円の増収。火災保険は個人・企業ともに販売が好調で304億円の増収。自動車保険も、ドラレコ型保険の新商品販売等により174億円の増収。一方、傷害保険は第三分野長期保有契約移行を主因に△62億円の減収となった。

(国内生保子会社)

- ・MSA生命: 16ページを参照
- ・MSP生命: 17ページを参照

（億円）

	2018年度 第2四半期	2019年度		増減率
		第2四半期	前年同期比	
経常利益	753	1,082	329	43.8%
三井住友海上	793	688	△ 104	△ 13.2%
あいおいニッセイ同和損保	△ 274	156	431	-
三井ダイレクト損保	9	15	6	62.4%
三井住友海上あいおい生命	78	96	18	23.2%
三井住友海上プライマリー生命	219	20	△ 199	△ 90.9%
海外保険子会社	209	356	147	70.1%
その他・連結調整等	△ 282	△ 252	30	-
中間純利益※	463	1,635	1,172	253.2%
三井住友海上	606	925	318	52.5%
あいおいニッセイ同和損保	△ 196	110	307	-
三井ダイレクト損保	8	13	5	62.5%
三井住友海上あいおい生命	38	51	12	32.7%
三井住友海上プライマリー生命	120	113	△ 6	△ 5.5%
海外保険子会社	155	301	146	94.3%
その他・連結調整等	△ 269	119	389	-

※ 連結の中間純利益は親会社株主に帰属する中間純利益を記載。子会社の中間純利益は出資持分ベース。以下同じ。

グループ連結（2019年度第2四半期）①業績の概要 2（ボトムライン）

< 中間純利益 >

（グループ連結）

・中間純利益は、国内自然災害が前年同期比で減少したことなどからMSとADが増益になったことに加え、資産運用が好調だったMS Amlinの増益が寄与し、1,172億円増益の1,635億円。

（国内損保子会社）

・MSは、有価証券売却益が減少したが、自然災害ロスの減少と海外事業再編に伴い発生した価格変動準備金取崩益もあり、318億円の増益。

・ADは307億円の増益。保険引受利益は、自然災害ロスの減少を主因に423億円の増益。

（国内生保子会社）

・MSA生命は、保有契約の増加や有価証券売却益等のキャピタル損益の増加により12億円の増益。

・MSP生命は、保有契約の増加により利ざやが増加したものの、商品改定による責任準備金負担の増加などにより△6億円の減益。

（海外保険子会社）

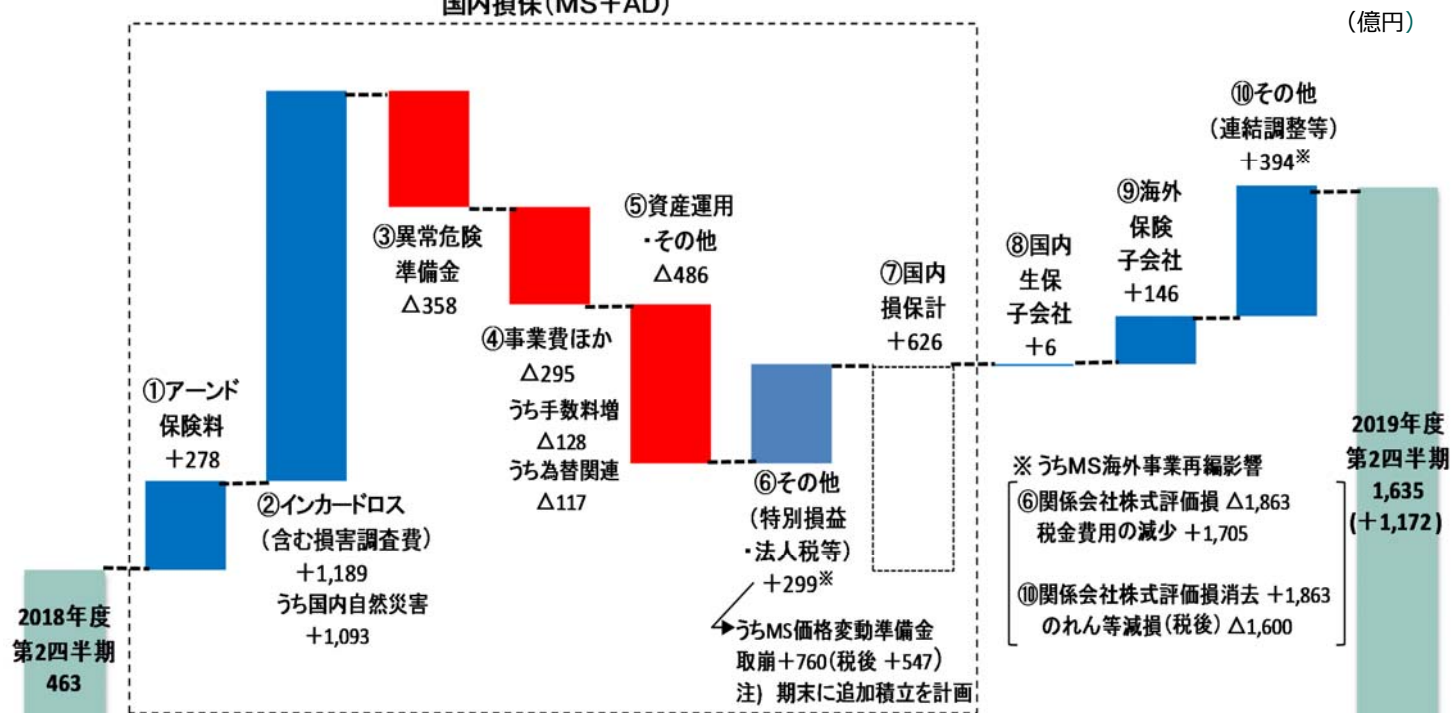
・資産運用が好調だったMS Amlinで145億円の増益になったことを主因に146億円の増益。

## グループ連結（2019年度第2四半期）②前年同期との比較 1

- ・ 中間純利益は、国内損保および海外保険子会社の増益を主因に1,172億円の増益。
- ・ 国内損保主要2社は、⑤の資産運用・その他が減少したものの、②のインカードロスの減少に加え⑥のMS海外事業再編に伴う価格変動準備金取崩もあり626億円の増益。

### 中間純利益

#### 国内損保 (MS+AD)



## グループ連結（2019年度第2四半期）②前年同期との比較 2

### 中間純利益の内訳

(億円)

	2018年度第2四半期	2019年度第2四半期	差額
中間純利益	463	1,635	1,172
国内損保 <sup>※1</sup> 保険引受利益 (除く家計地震・自賠責)	△ 667	145	813
アーンド保険料 ①	12,098	12,376	278
インカードロス (含む損害調査費) ②	△ 8,521	△ 7,332	1,189
異常危険準備金損益 ③	△ 248	△ 607	△ 358
事業費ほか <sup>※2</sup> ④	△ 3,995	△ 4,291	△ 295
資産運用・その他 ⑤	1,186	700	△ 486
その他 (特別損益・法人税等) ⑥	△ 108	190	299
国内損保計 ⑦	410	1,036	626
国内生保子会社 ⑧	158	165	6
海外保険子会社 ⑨	155	301	146
その他 (連結調整等) ⑩	△ 261	132	394

※1 国内損保は、三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の金額の合計

※2 「事業費ほか」には、為替損益などが含まれる

## グループ連結（2019年度第2四半期）③グループ修正利益

・国内損保事業、海外事業の増益を主因にグループ修正利益は641億円の増益。

(億円)

	2018年度 第2四半期	2019年度 第2四半期	前年同期比
グループ修正利益 ※1	882	1,523	641
国内損保事業	480	931	450
国内生保事業	163	177	14
海外事業	211	386	174
金融サービス事業/リスク関連事業	26	27	1

※1 「グループ修正利益」の定義は最終ページご参照。なお「グループ修正ROE」は年度末に開示。

(参考)

$$\begin{array}{c} \text{グループ} \\ \text{修正利益} \\ 1,523 \end{array} = \begin{array}{c} \text{連結} \\ \text{中間純利益} \\ 1,635 \end{array} + \begin{array}{c} \text{異常危険準備金等} \\ \text{繰入・戻入額}^{\ast 2} \\ \Delta 83 \end{array} - \begin{array}{c} \text{その他} \\ \text{特殊要因}^{\ast 3} \\ 26 \end{array} + \begin{array}{c} \text{非連結} \\ \text{グループ会社} \\ \text{持分利益} \\ \Delta 1 \end{array}$$

※2 繰入の場合は加算、戻入の場合は減算

※3 のれん償却等△1,767、特別損益(除く価格変動準備金)等1,794 [うちMS海外事業再編に伴う税金費用の減少1,705]

## グループ連結（2019年度第2四半期）④当年度発生自然災害ロス（国内・海外）

- ・国内自然災害は前年同期比△1,093億円減少の677億円。
- ・2019年度台風15号の元受ベースの最終支払見込額は2社計で約1,350億円 (MS:約770億円、AD:約580億円)。
- ・海外自然災害は前年同期比18億円増加の27億円。

### 国内自然災害の影響

(億円)

	インカードロス		
	2018年度 第2四半期	2019年度 第2四半期	前年同期比
三井住友海上	860	396	△ 464
あいおいニッセイ同和損保	910	281	△ 628
合計	1,770	677	△ 1,093

### 海外自然災害の影響※

(億円)

	インカードロス		
	2018年度 第2四半期	2019年度 第2四半期	前年同期比
あいおいニッセイ同和損保	8	27	18
MS Amlin	-	-	-
合計	8	27	18

※ 上記2社の海外自然災害

## 国内損害保険会社（2019年度第2四半期）①主要2社の業績概要 1

- ・ 保険引受利益（異常危険準備金反映前）は自然災害の影響が前期に比べ減少したことにより1,171億円の増加。

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		前年同期比		前年同期比	(単体)	前年同期比
正味収入保険料 <sup>※1</sup>	14,602	589	8,033	259	6,568	329
アーンド保険料 <sup>※2</sup>	12,376	278	6,932	132	5,444	146
インカードロス(含む損害調査費) <sup>※2</sup> (－)	7,332	△ 1,189	4,140	△ 467	3,192	△ 722
保険引受に係る事業費 <sup>※2</sup> (－)	4,258	181	2,263	48	1,994	132
諸手数料及び集金費 <sup>※2</sup>	2,612	128	1,377	59	1,234	68
営業費及び一般管理費 <sup>※2</sup>	1,645	53	885	△ 10	760	64
保険引受利益(異常危険準備金反映前)	752	1,171	536	546	215	625
異常危険準備金損益	△ 607	△ 358	△ 310	△ 157	△ 296	△ 201
保険引受利益	145	813	226	389	△ 80	423
EI損害率 <sup>※2</sup>	59.2%	△ 11.2pt	59.7%	△ 8.1pt	58.6%	△ 15.3pt
正味損害率 <sup>※1</sup>	55.6%	△ 4.1pt	55.9%	△ 3.6pt	55.2%	△ 4.8pt
正味事業費率 <sup>※1</sup>	31.8%	0.1pt	30.4%	△ 0.3pt	33.6%	0.7pt
コンバインド・レシオ <sup>※1</sup>	87.4%	△ 4.0pt	86.3%	△ 3.9pt	88.8%	△ 4.1pt

※1 全種目ベース

※2 除く家計地震・自賠責ベース

※ 自動車保険「もとリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※ アーンド(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

## 国内損害保険会社（2019年度第2四半期）①主要2社の業績概要 2

- ・ 有価証券売却益の減少などにより資産運用損益は減少。政策株式売却の進捗は概ね計画どおり。
- ・ MSは、関係会社株式評価損（連結決算上は消去）と価格変動準備金取崩益を特別損益に計上。

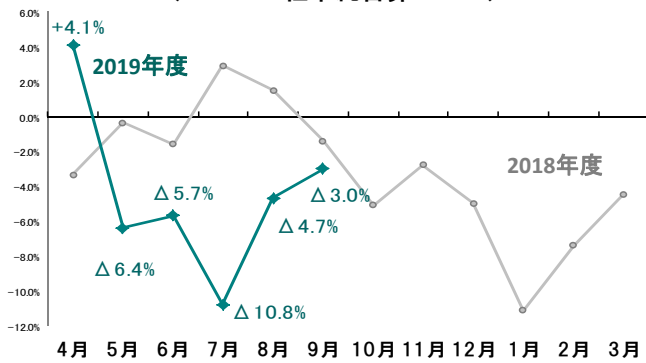
(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		前年同期比		前年同期比	(単体)	前年同期比
保険引受利益	145	813	226	389	△ 80	423
ネット利息及び配当金収入	625	3	403	△ 13	221	16
有価証券売却損益	305	△ 345	210	△ 371	95	25
有価証券評価損 (－)	88	64	50	31	37	33
資産運用・その他収支	700	△ 486	462	△ 493	237	7
経常利益	845	326	688	△ 104	156	431
特別損益	△ 1,140	△ 1,094	△ 1,127	△ 1,107	△ 13	12
税引前中間純利益	△ 294	△ 767	△ 438	△ 1,211	143	443
法人税等	△ 1,331	△ 1,393	△ 1,364	△ 1,530	32	136
中間純利益	1,036	626	925	318	110	307
	2社合計					
		前年同期比				
(参考)政策株式売却額	501	△ 224				

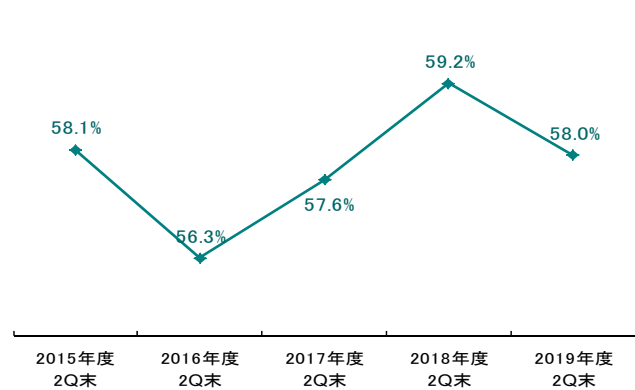
## 国内損害保険会社（2019年度第2四半期）②自動車保険の状況

- ・事故件数は、9月末累計で前年同期比△5.5%の減少。
- ・事故頻度の低下を主因にEI損害率は△1.2pt低下の58.0%。引き続き保険金単価の上昇を注視。

事故件数の推移（国内、1日あたり、対前年同月。除く自然災害）  
（MS・AD 2社単純合算ベース）



EI 損害率の推移（含む損害調査費）  
（MS・AD 2社単純合算ベース）



### 保険料・保険金

#### 三井住友海上

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	+0.5%	+1.3%	+1.9%
<国内>	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	+1.4%	+2.3%	

#### あいおいニッセイ同和損保

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	+0.1%	+2.5%	+2.6%
<国内>	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	+1.8%	+1.9%	

※ 保険料増減要因の諸数値は営業成績ベース(4-9月)の対前年同期比

※ 保険金単価の増減は、2019年3月末過去1年間の保険金単価に対する、2019年9月末過去1年間の保険金単価の増減を表示

※ EI損害率算出対象期間は、各年度の4-9月

## 国内生命保険会社 三井住友海上あいおい生命（2019年度第2四半期）業績概要

- ・新契約高は、前年同期の収入保障保険の販売好調の反動や8月下旬までの法人向け商品の販売停止を主因に減少。
- ・グロス収入保険料はMS、ADからの第三分野長期保有契約移行による増収影響もあり、104億円の増収。
- ・中間純利益は、保有契約の増加や有価証券売却益等のキャピタル損益が増加したことなどから、12億円の増益。

### 三井住友海上あいおい生命

(億円)

	2018年度 第2四半期		2019年度 第2四半期	
			前年同期比	増減率
新契約高（個人合計）	17,872	10,645	△ 7,227	△ 40.4%
新契約年換算保険料	258	146	△ 111	△ 43.3%
うち 第三分野	86	102	16	18.6%
保有契約高（個人合計）	(期首) 245,331	245,336	(期首比) 5	0.0%
保有契約年換算保険料	(期首) 4,315	4,486	(期首比) 171	4.0%
うち 第三分野	(期首) 1,078	1,327	(期首比) 248	23.1%
保険料(グロス収入保険料)	2,474	2,579	104	4.2%
経常利益	78	96	18	23.2%
特別損益	△ 6	△ 5	1	-
中間純利益	38	51	12	32.7%
基礎利益	87	81	△ 6	△ 6.9%
EEV	(期首) 8,194	8,696	(期首比) 501	
参考: EEV(UFR適用した場合)		9,954		

※ 第2四半期のEEVは、一部簡易な計算による試算値。また、第三者機関の検証は受けておりません。



## 国内生命保険会社 三井住友海上プライマリー生命（2019年度第2四半期）業績概要

- ・ グロス収入保険料は、外国金利の低下による販売マーケットの縮小などを主因に△877億円の減収。
- ・ 商品改定により責任準備金負担が増加したことなどから、中間純利益は△6億円の減益。

### 三井住友海上プライマリー生命

(億円)

	2018年度 第2四半期		2019年度 第2四半期		前年同期比	増減率
新契約高（個人合計）		5,732		<b>4,795</b>	△ 936	△ 16.3%
保有契約高（個人合計）	（期首）	66,785		<b>66,968</b>	（期首比） 183	0.3%
保険料（グロス収入保険料）		5,630		<b>4,753</b>	△ 877	△ 15.6%
経常利益		219		<b>20</b>	△ 199	△ 90.9%
特別損益		△ 54		<b>135</b>	190	-
中間純利益		120		<b>113</b>	△ 6	△ 5.5%

### 金利・為替影響

(億円)

金利影響	5	<b>△ 209</b>
為替影響	32	<b>55</b>
合計	38	<b>△ 153</b>

## 海外保険子会社（2019年度第2四半期）業績概要

- ・ 正味収入保険料は為替影響を主因に△67億円の減収となったが、為替影響を除けば111億円の増収。
- ・ 中間純利益は、資産運用が好調だったMS Amlinで145億円の増益になったことを主因に146億円の増益。

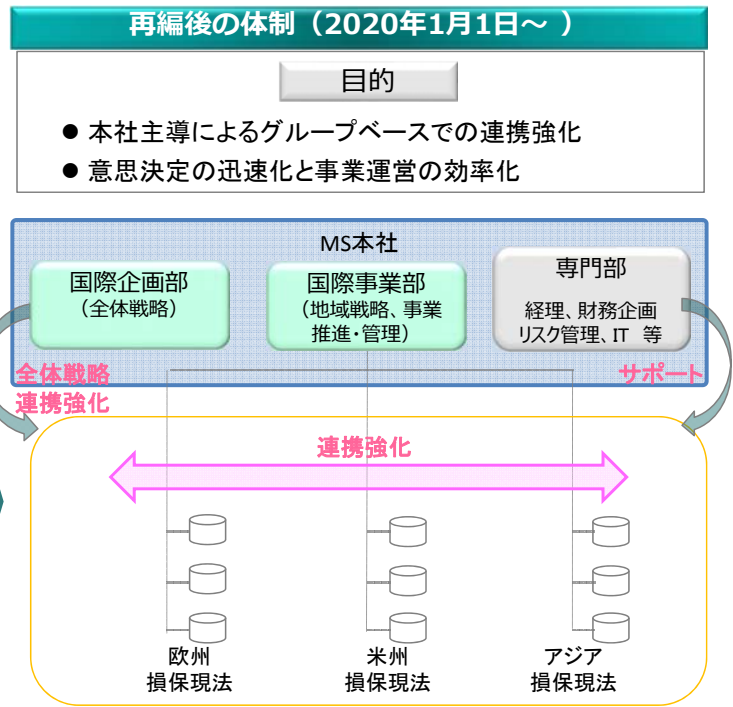
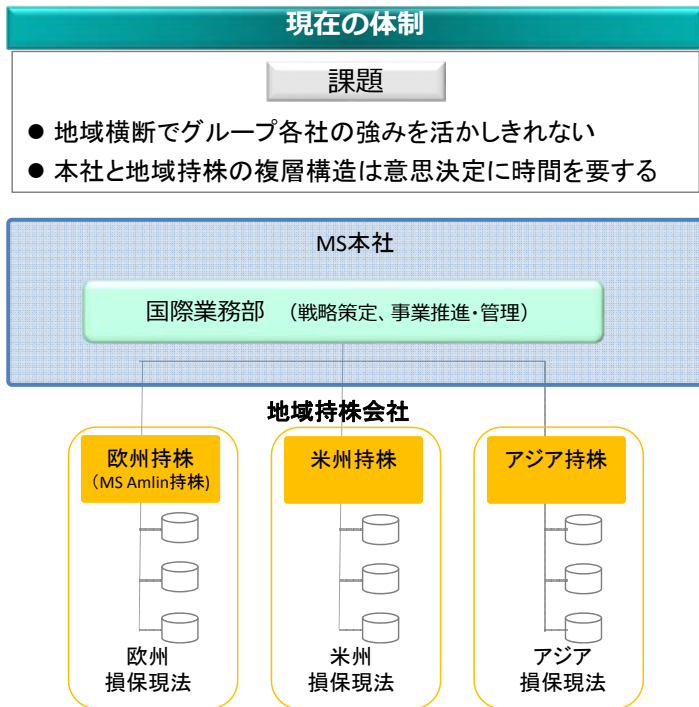
### 海外保険子会社

(億円)

	2018年度 第2四半期		2019年度 第2四半期		前年同期比	増減率
正味収入保険料		4,546		<b>4,478</b>	△ 67	△1.5%
アジア		939		<b>926</b>	△ 13	△1.4%
欧州		3,362		<b>3,319</b>	△ 42	△1.3%
（うちMS Amlin）		3,108		<b>3,061</b>	△ 47	△1.5%
米州		244		<b>232</b>	△ 11	△4.9%
中間純利益		155		<b>301</b>	146	94.3%
アジア		111		<b>93</b>	△ 17	△15.8%
欧州		△ 8		<b>137</b>	146	-
（うちMS Amlin）		10		<b>155</b>	145	1,417.9%
米州		15		<b>15</b>	△ 0	△1.2%
海外生保		37		<b>54</b>	17	47.0%

# MSの海外事業の組織再編 ①概要

- 海外事業全体の戦略を企画・立案する国際企画部と、地域戦略と事業推進・管理を担う国際事業部に再編。本社専門部（経理部、財務企画部、リスク管理部、IT推進部等）が、海外事業をサポートする態勢を拡充
- 地域持株会社を廃止して、海外損保事業会社をMS直轄とし、地域持株会社が担っていた戦略策定に係る機能および権限を本社に集約・一元化



# MSの海外事業の組織再編 ②業績への一時的な影響

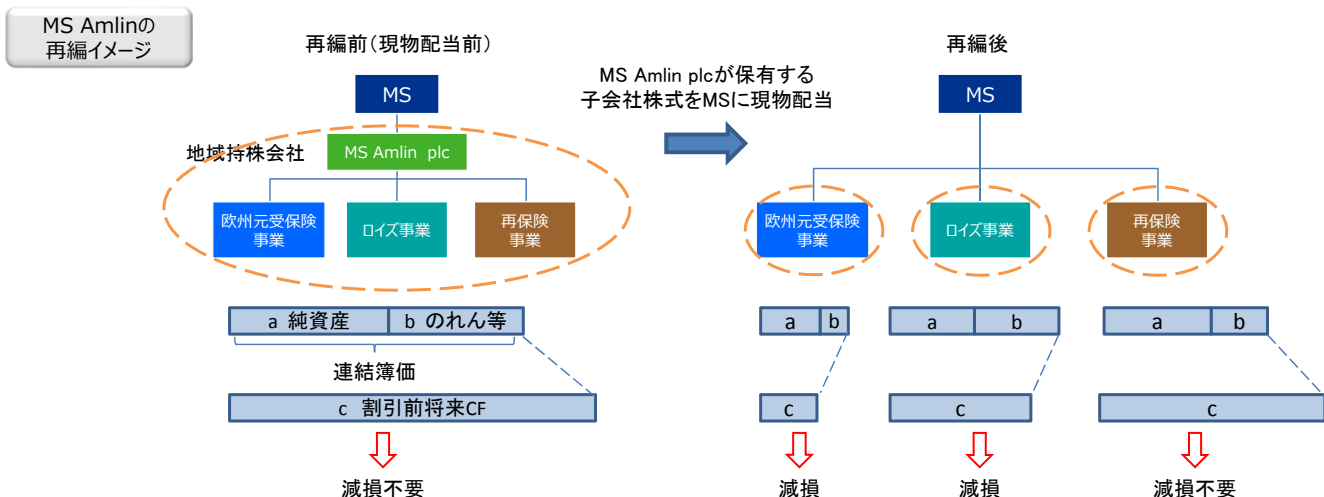
## 1. のれん等の減損 △1,754億円 (税後影響 △1,600億円)

地域持株体制を廃止し三井住友海上が直接管理する体制に変更することに伴い、MS Amlinののれんの減損判定における事業区分を見直し、従来はMS Amlin全体で1つのグループとして見ていたものを欧州元受保険事業、ロイズ事業、再保険事業の3つのグループに変更。

3つの事業区分のうち、欧州元受保険事業とロイズ事業については、取得時の想定より収益性が低下していることから、減損損失を計上。

## 2. 再編に伴う税金費用の減少 +1,705億円

海外事業の組織再編に伴い、地域持株会社が保有する子会社株式を三井住友海上に現物配当することにより、税務上損金が発生。



## (ご参考) 国内損害保険会社 (2019年度第2四半期) 主要2社の業績概要 1

### 正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		増収率		増収率		増収率
火災	2,231	15.8%	1,146	12.5%	1,084	19.6%
海上	362	△1.2%	319	△0.7%	42	△4.7%
傷害	1,066	△5.5%	769	△3.2%	296	△11.1%
自動車	6,951	2.6%	3,371	1.7%	3,579	3.4%
自賠責	1,792	6.7%	949	7.3%	843	6.0%
その他	2,198	3.0%	1,477	2.7%	721	3.7%
合計	14,602	4.2%	8,033	3.3%	6,568	5.3%
除く家計地震・自賠責	12,805	3.9%	7,082	2.8%	5,723	5.2%

※自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

## (ご参考) 国内損害保険会社 (2019年度第2四半期) 主要2社の業績概要 2

### EI損害率 (2社単純合算)

	EI損害率			EI損害率(除く自然災害影響)		
	2018年度 第2四半期	2019年度 第2四半期	前年同期比	2018年度 第2四半期	2019年度 第2四半期	前年同期比
火災 (除く家計地震)	131.1%	67.8%	△63.3pt	54.9%	43.8%	△11.1pt
海上	56.2%	64.8%	8.6pt	51.4%	60.7%	9.3pt
傷害	51.4%	52.2%	0.8pt	51.4%	52.2%	0.8pt
自動車	59.2%	58.0%	△1.2pt	57.5%	57.4%	△0.1pt
その他	57.7%	56.7%	△1.0pt	53.4%	55.6%	2.2pt
合計 (除く家計地震・自賠責)	70.4%	59.2%	△11.2pt	55.7%	54.4%	△1.3pt

※自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※インカードロス=正味支払保険金+損害調査費+支払備金積増額

※EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの合計から2018年度自然災害に係るキャットボンド回収額を控除したものの

EI損害率 (三井住友海上 (単体)、あいおいニッセイ同和損保 (単体))

	EI損害率				EI損害率(除く自然災害影響)			
	三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)		三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比		前年同期比
火災 (除く家計地震)	67.7%	Δ50.9pt	67.9%	Δ79.2pt	47.1%	Δ8.5pt	39.8%	Δ14.2pt
海上	66.8%	12.1pt	48.7%	Δ20.4pt	62.1%	12.8pt	48.7%	Δ20.4pt
傷害	51.8%	0.4pt	53.3%	1.8pt	51.8%	0.5pt	53.3%	1.8pt
自動車	58.3%	Δ0.4pt	57.8%	Δ1.9pt	57.7%	0.5pt	57.1%	Δ0.7pt
その他	58.9%	1.2pt	52.1%	Δ5.7pt	58.0%	5.3pt	50.6%	Δ4.4pt
合計 (除く家計地震・自賠償)	59.7%	Δ8.1pt	58.6%	Δ15.3pt	55.6%	0.5pt	53.0%	Δ3.5pt

※ 自動車保険「もどりッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※ インカードロス = 正味支払保険金 + 損害調査費 + 支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの合計から2018年度自然災害に係るキャットボンド回収額を控除したもの

(空白)

## (ご参考) MS Amlin 2019年度第2四半期(2019年1-6月期)業績概要※1

(百万ポンド)

	2018年度 第2四半期	2019年度 第2四半期	前年同期比
正味収入保険料	2,088	2,151	63
アード保険料	1,495	1,547	52
インカードロス(含む損害調査費)	957	1,000	43
手数料・社費	539	532	△8
保険引受利益	25	17	△8
資産運用損益※2	57	178	121
その他損益※3	△81	△84	△3
中間純利益	7	109	102
EI 損害率	64.0%	64.6%	0.6pt
EI 事業費率※4	34.3%	34.3%	0.0pt
EI コンバインド・レシオ※4	98.3%	98.9%	0.6pt

※1 現地管理ベース

※2 MS Amlinは有価証券の時価変動を損益に反映させる会計処理方法を採用

※3 保険事業会社以外で生じる経費等

※4 EI 事業費率およびEI コンバインド・レシオは、現地管理に合わせて保険引受利益に含まれる為替差損益を入れて算出

## (ご参考) MS Amlin 2019年度第2四半期(2019年1-6月期)業績概要

### (中間純利益)

- 中間純利益は109百万ポンドと前年同期比102百万ポンドの大幅な増益となった。
- 資産運用が好調であったことや大規模な自然災害の影響を受けなかったことが主因。

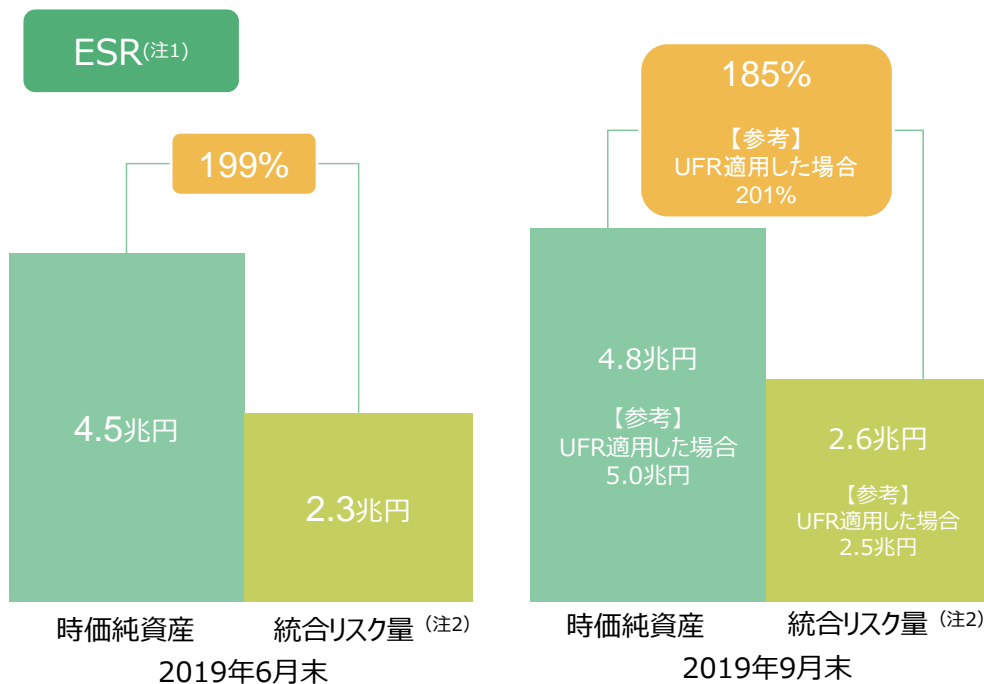
### (保険引受利益)

- 保険引受利益は為替の影響\*等により、前年同期比△8百万ポンドの17百万ポンドとなった。
- 一般保険リスクの損害率は63.0%と前年同期比△4.5pt改善したが、年初予想水準には達しなかった。

### (資産運用損益)

- 資産運用損益は株式および債券ファンド等の好調を主因に178百万ポンドとなり、前年同期比121百万ポンドと大幅な増益となった。

\* IFRSでは外貨建責任準備金等を為替換算替えしないため、主に対応する米ドルの資産から為替差損益が生じる。



＜ESRの主な増減要因＞  
(2019年6月末対比)

ESRは、時価純資産と統合リスク量がほぼ同額増加したことにより、14pt下落。

- ✓ 時価純資産は、劣後債の発行、国内株価の上昇、MS海外事業再編により増加。
- ✓ 統合リスク量は国内株価の上昇、MS海外事業再編により増加。

＜市場環境前提＞

	2019年 6月末	2019年 9月末	対6月末比
日経平均株価	21,276円	21,756円	+480円
国債30年金利	0.36%	0.37%	+0.01pt
為替 (ドル円)	108円	108円	+0円

(注1) ESR : エコノミック・ソルベンシー・レシオ (= 時価純資産 ÷ 統合リスク量)  
(注2) 統合リスク量 : 信頼水準99.5%のVaR (Value at Risk) でリスク量を計測。

2019年度業績予想

## グループ連結（2019年度業績予想）①概要1（トップライン）

- ・ 損保子会社の正味収入保険料は、海外保険子会社が円高による為替影響を主因に年初予想を下回るものの、国内損保子会社が火災保険、自動車保険などで年初予想を上回ることから、全体では年初予想とほぼ同水準を予想。
- ・ 生保子会社のグロス収入保険料は、MSP生命の減収を主因に年初予想比△2,060億円の減収を予想。

### 損保子会社

(億円)

	2018年度	2019年度 (年初予想)	2019年度(今回予想)			
			前期比	増収率	年初予想比	
正味収入保険料 <sup>※</sup>	35,004	35,240	<b>35,250</b>	245	0.7%	10
三井住友海上	15,124	15,410	<b>15,440</b>	315	2.1%	30
あいおいニッセイ同和損保	12,335	12,610	<b>12,700</b>	364	3.0%	90
三井ダイレクト損保	366	368	<b>360</b>	△ 6	△ 1.8%	△ 8
海外保険子会社	7,146	6,810	<b>6,750</b>	△ 396	△ 5.5%	△ 60

※ 自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

### 生保子会社

	2018年度	2019年度 (年初予想)	2019年度(今回予想)			
			前期比	増収率	年初予想比	
保険料(グロス収入保険料) <sup>※</sup>	15,999	15,250	<b>13,190</b>	△ 2,809	△ 17.6%	△ 2,060
三井住友海上あいおい生命	5,042	5,220	<b>5,190</b>	147	2.9%	△ 30
三井住友海上プライマリー生命	10,956	10,030	<b>8,000</b>	△ 2,956	△ 27.0%	△ 2,030
生命保険料	12,868	11,430	<b>9,640</b>	△ 3,228	△ 25.1%	△ 1,790

※ 保険料(グロス収入保険料)は国内生保子会社のみ

## グループ連結（2019年度業績予想）①概要2（ボトムライン）

- ・ 当期純利益は、自然災害増加による負担増（インカードロスの増加、再保険コストの増加、自然災害責任準備金の積立）があるものの、異常危険準備金やMSの価格変動準備金の取崩、MS海外事業再編影響および償却費負担の減少などを織り込み、年初予想どおりの2,000億円。

(億円)

	2018年度	2019年度 (年初予想)	2019年度(今回予想)		
			前期比	年初予想比	
経常利益	2,908	2,980	<b>2,100</b>	△ 808	△ 880
三井住友海上	2,264	1,820	<b>960</b>	△ 1,304	△ 860
あいおいニッセイ同和損保	613	680	<b>690</b>	76	10
当期純利益 <sup>※</sup>	1,927	2,000	<b>2,000</b>	72	-
三井住友海上	1,711	1,360	<b>960</b>	△ 751	△ 400
あいおいニッセイ同和損保	373	400	<b>400</b>	26	-
三井ダイレクト損保	2	1	<b>1</b>	△ 1	-
三井住友海上あいおい生命	79	100	<b>100</b>	20	-
三井住友海上プライマリー生命	233	170	<b>170</b>	△ 63	-
海外保険子会社	193	380	<b>400</b>	206	20
その他・連結調整等	△ 665	△ 411	<b>△ 31</b>	634	380
ROE(財務会計ベース)	6.8%	7.1%	<b>7.1%</b>	0.3pt	-

※連結の当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益。子会社の当期純利益は出資持分ベース。以下同じ。

# グループ連結（2019年度業績予想）②当年度発生自然災害ロス（国内・海外）

## <国内自然災害の影響>

	2019年度 (年初予想)	2019年度(今回予想)	
		年初予想比	
正味インカードロス	550	1,230	680
三井住友海上	330	700	370
あいおいニッセイ同和損保	220	530	310

(参考)

(億円)

	2019年度元受 支払見込額
台風15号	1,350
台風19号	2,300

※ 現時点における見込み

## <異常危険準備金(火災)期末残高>

	2018年度末 残高	2019年度(今回予想)			
		取崩額	繰入額	残高	年初予想比
合計	1,639	775	751	1,615	△ 200
三井住友海上	890	407	509	991	△ 3
あいおいニッセイ同和損保	749	368	242	624	△ 197

※期末に追加繰入(MS:300億円)を織込

## <海外自然災害の影響>

	2019年度 (年初予想)	2019年度(今回予想)	
		年初予想比	
正味インカードロス	412	305	△ 107
あいおいニッセイ同和損保	145	135	△ 10
MS Amlin	267	170	△ 97

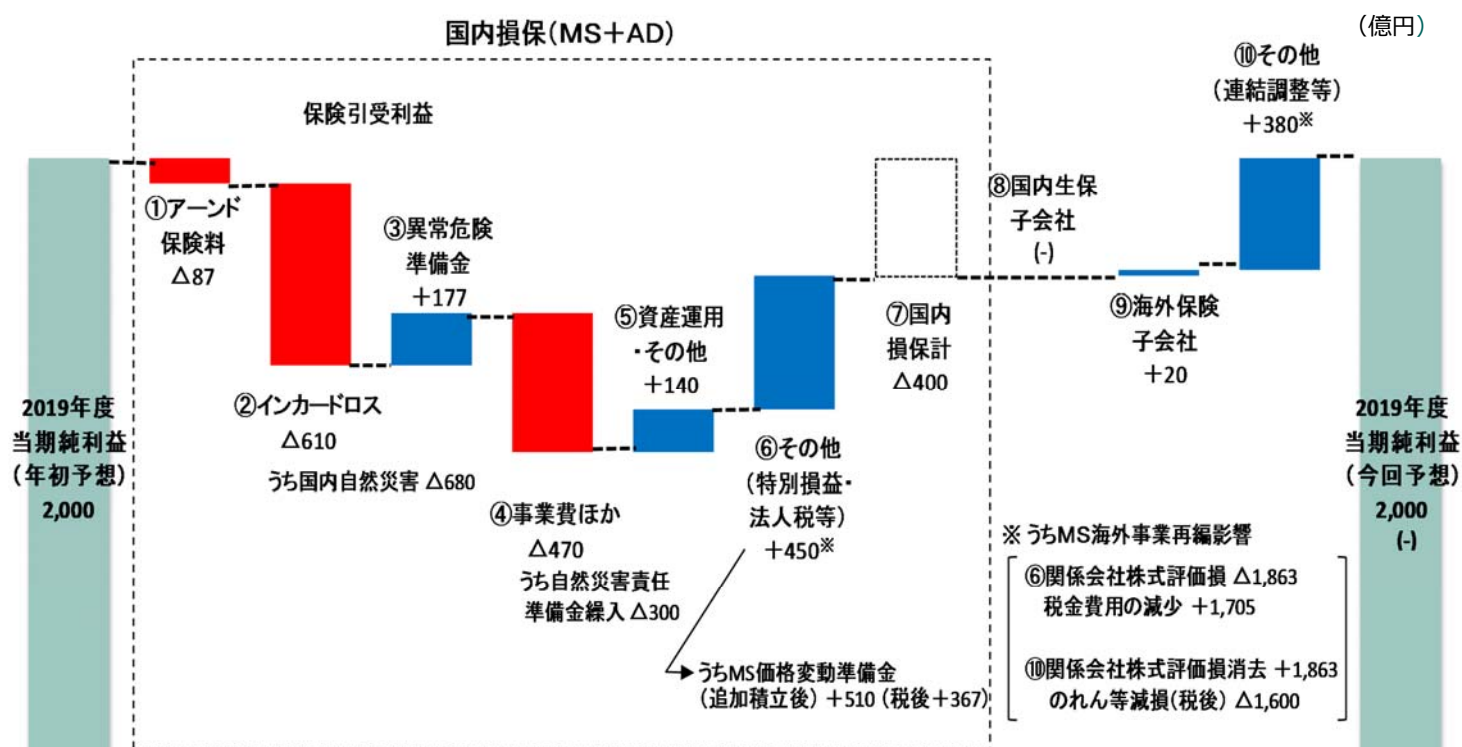
※ 上記2社の海外自然災害

# グループ連結（2019年度業績予想）③年初予想との比較

- ・当期純利益は、年初予想どおりの2,000億円。
- ・国内自然災害の増加により、①再保険コストの増加、②インカードロスの増加、④自然災害責任準備金(注)の繰入を織り込む。  
(注)大規模自然災害リスクに対応するための火災保険の責任準備金（下図では通常の未経過保険料との差額を④に含めている。）

## 連結純利益の年初予想比増減要因

### 国内損保(MS+AD)





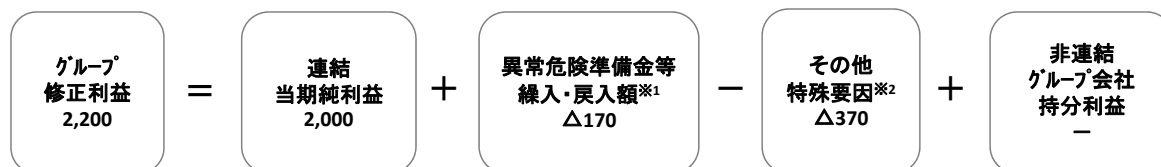
## グループ連結（2019年度業績予想）④グループ修正利益

・グループ修正利益は、国内損保事業の減益を主因に年初予想比△430億円の2,200億円。

(億円)

	2018年度	2019年度 (年初予想)	2019年度(今回予想)		
			前期比	年初予想比	
グループ修正利益	1,898	2,630	<b>2,200</b>	301	△ 430
国内損保事業	1,469	1,860	<b>1,070</b>	△ 399	△ 790
国内生保事業	316	290	<b>290</b>	△ 26	-
海外事業	54	420	<b>470</b>	415	50
金融サービス事業/リスク関連事業	58	60	<b>70</b>	11	10
その他経営数値目標					
MSA生命 EEV	8,194	9,270	<b>9,020</b>	826	△ 250
グループ修正ROE	6.1%	8.7%	<b>7.1%</b>	1.0pt	△ 1.6pt

(参考) 2019年度(今回予想)のグループ修正利益



※1 繰入の場合は加算、戻入の場合は減算

※2 のれん償却等△1,870、特別損益(除く価格変動準備金)等1,500 [MS海外事業再編に伴う税金費用の減少のうち、繰延税金資産見合いの1,405億円を含む]

## 今回業績予想の主な前提

市場環境の前提	三井住友海上		あいおいニッセイ同和損保		
	2019年9月末の水準を想定				
	( 参考(2019年9月末) 日経平均 21,756円、米ドル 108円、ユーロ 118円、英ポンド 133円 )				
国内自然災害	<b>700億円</b>	(+ 370億円)	<b>530億円</b>	(+ 310億円)	
異常危険準備金 (火災保険)	繰入	<b>509億円</b>	(+ 295億円)	<b>242億円</b>	(+ 11億円)
	取崩	<b>407億円</b>	(+ 298億円)	<b>368億円</b>	(+ 208億円)
	積増	<b>101億円</b>	(△ 3億円)	<b>△ 126億円</b>	(△ 197億円)
異常危険準備金 (自動車保険)	繰入	<b>214億円</b>	(+ 1億円)	<b>227億円</b>	(-)
	取崩	<b>120億円</b>	(△ 22億円)	<b>364億円</b>	(+ 26億円)
	積増	<b>94億円</b>	(+ 23億円)	<b>△ 137億円</b>	(△ 26億円)
法定実効税率	<b>27.9%</b>				

※ 海外自然災害について、MS Amlinは170億円(△97億円)。あいおいニッセイ同和損保は135億円(△10億円)。

※ 異常危険準備金(火災保険)について、三井住友海上で300億円(+300億円)の追加繰入を織込。

※ 価格変動準備金について、三井住友海上は250億円(+250億円)、あいおいニッセイ同和損保は100億円(年初予想どおり)の追加繰入を織込。

※ ( )内は年初予想比

## 国内損害保険会社（2019年度業績予想）主要2社の概要 1

(億円)

	2社合計(単純合計)			三井住友海上(単体)			あいおいニッセイ同和損保			
		前期比	年初 予想比		前期比	年初 予想比	(単体)	前期比	年初 予想比	
正味収入保険料 <sup>※1</sup>	28,140	679	120	15,440	315	30	12,700	364	90	
アーンド保険料 <sup>※2</sup>	24,266	359	△ 87	13,415	143	△ 68	10,851	215	△ 19	
インカードロス(含む損害調査費) <sup>※2</sup>	(-)	15,111	△ 790	610	8,288	△ 283	495	6,823	△ 506	115
保険引受に係る事業費 <sup>※2</sup>	(-)	8,679	473	112	4,697	263	49	3,982	210	63
諸手数料及び集金費 <sup>※2</sup>	5,124	243	97	2,722	141	54	2,402	101	43	
営業費及び一般管理費 <sup>※2</sup>	3,555	230	15	1,975	121	△ 5	1,580	108	20	
保険引受利益(異常危険準備金反映前)	136	305	△ 1,167	240	△ 11	△ 820	△ 104	316	△ 347	
異常危険準備金損益	△ 86	△ 884	177	△ 300	△ 522	-	214	△ 361	177	
保険引受利益	50	△ 578	△ 990	△ 60	△ 533	△ 820	110	△ 45	△ 170	
EI損害率 <sup>※2</sup>	62.3%	△ 4.2pt	2.8pt	61.8%	△ 2.8pt	4.0pt	62.9%	△ 6.0pt	1.2pt	
正味損害率 <sup>※1</sup>	63.0%	△ 3.9pt	1.3pt	62.6%	△ 3.6pt	1.7pt	63.4%	△ 4.4pt	0.6pt	
正味事業費率 <sup>※1</sup>	33.5%	1.0pt	0.3pt	32.6%	1.1pt	0.2pt	34.5%	0.7pt	0.3pt	
コンバインド・レシオ <sup>※1</sup>	96.5%	△ 2.9pt	1.6pt	95.2%	△ 2.5pt	1.9pt	97.9%	△ 3.7pt	0.9pt	

※1 全種目ベース

※2 除く家計地震・自賠責ベース

※自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※アーンド(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

## 国内損害保険会社（2019年度業績予想）主要2社の概要 2

(億円)

	2社合計(単純合計)			三井住友海上(単体)			あいおいニッセイ同和損保		
		前期比	年初 予想比		前期比	年初 予想比	(単体)	前期比	年初 予想比
保険引受利益	50	△ 578	△ 990	△ 60	△ 533	△ 820	110	△ 45	△ 170
ネット利息及び配当金収入	1,104	△ 109	26	719	△ 98	△ 3	385	△ 11	29
有価証券売却損益	890	△ 441	166	566	△ 595	14	324	153	152
有価証券評価損 (-)	133	71	41	103	62	41	30	9	-
資産運用・その他収支	1,600	△ 649	140	1,020	△ 771	△ 40	580	121	180
経常利益	1,650	△ 1,228	△ 850	960	△ 1,304	△ 860	690	76	10
特別損益	△ 1,539	△ 1,369	△ 1,341	△ 1,382	△ 1,350	△ 1,344	△ 157	△ 19	3
当期純利益	1,360	△ 724	△ 400	960	△ 751	△ 400	400	26	-

## 主要項目

(億円)

	2018年度	2019年度 (年初予想)	2019年度（今回予想）		
			増減率/前期比	年初予想比	
新契約高 <sup>※</sup>	31,145	28,341	<b>20,907</b>	Δ32.9%	Δ7,434
新契約年換算保険料 <sup>※</sup>	511	321	<b>302</b>	Δ40.9%	Δ19
保有契約高 <sup>※</sup>	245,331	250,556	<b>245,008</b>	Δ0.1%	Δ5,548
保有契約年換算保険料 <sup>※</sup>	4,315	4,545	<b>4,485</b>	3.9%	Δ60
保険料(グロス収入保険料)	5,042	5,220	<b>5,190</b>	147	Δ30
経常利益	195	219	<b>220</b>	25	1
当期純利益	79	100	<b>100</b>	20	-

※新契約高、新契約年換算保険料、保有契約高、保有契約年換算保険料は、個人保険・個人年金保険の合計

## 主要項目

(億円)

	2018年度	2019年度 (年初予想)	2019年度（今回予想）		
			増減率/前期比	年初予想比	
新契約高	11,182	11,227	<b>8,120</b>	Δ 27.4%	Δ 3,107
保有契約高	66,785	72,780	<b>65,630</b>	Δ 1.7%	Δ 7,150
保険料(グロス収入保険料)	10,956	10,030	<b>8,000</b>	Δ 2,956	Δ 2,030
経常利益	355	278	<b>158</b>	Δ 197	Δ 119
当期純利益	233	170	<b>170</b>	Δ 63	-

### 海外保険子会社

（億円）

	2018年度	2019年度 （年初予想）	2019年度（今回予想）		
			前期比	年初予想比	
正味収入保険料	7,146	6,810	<b>6,750</b>	△ 396	△ 60
アジア	1,840	1,810	<b>1,757</b>	△ 83	△ 53
欧州	4,860	4,527	<b>4,537</b>	△ 322	10
（うちMS Amlin）	4,477	4,126	<b>4,153</b>	△ 324	27
米州	445	473	<b>456</b>	9	△ 17
当期純利益	193	380	<b>400</b>	206	20
アジア	261	162	<b>160</b>	△ 101	△ 2
欧州	△ 190	34	<b>46</b>	236	13
（うちMS Amlin）	△ 137	62	<b>73</b>	210	10
米州	40	31	<b>31</b>	△ 9	-
海外生保	82	153	<b>162</b>	80	9

## 海外保険子会社（2019年度業績予想）

正味収入保険料は、概ね年初予想どおり。

純利益は、年初予想比20億円の引上げとなる400億円。

#### <MS Amlin>

- 資産運用収益の好調を主因に年初予想比10億円の増加を見込む。

#### （保険引受利益）

- 一般保険リスクの損害率は、前年対比で改善するが、複数の一般大口ロスの発生を主因に年初予想を上回る見込み。
- 自然災害については、下期は計画どおりの発生を見込む。北米ハリケーン・ドリアンやカリフォルニア州山火事など、今年度下期に発生した大口自然災害の影響は精査中。

#### （資産運用損益）

- 上期好調。下期はBrexitや米中貿易摩擦等による不透明感を勘案。

## (ご参考) 国内損害保険会社（2019年度業績予想）主要2社の概要 1

### 正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		増収率		増収率		増収率
火災	4,035	5.5%	2,057	3.5%	1,978	7.6%
海上	685	△2.7%	610	△2.0%	75	△8.0%
傷害	2,016	△6.4%	1,463	△3.4%	553	△13.5%
自動車	13,787	2.7%	6,690	1.8%	7,097	3.6%
自賠責	3,482	3.2%	1,850	3.9%	1,632	2.5%
その他	4,135	3.9%	2,770	4.6%	1,365	2.5%
合計	28,140	2.5%	15,440	2.1%	12,700	3.0%
除く家計地震・自賠責	24,650	2.4%	13,585	1.8%	11,065	3.0%

※自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

## (ご参考) 国内損害保険会社（2019年度業績予想）主要2社の概要 2

### EI損害率

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		前期比		前期比		前期比
火災	74.2%	△37.7pt	74.8%	△34.3pt	73.6%	△41.4pt
海上	59.0%	△1.9pt	63.1%	6.8pt	25.3%	△71.9pt
傷害	53.3%	2.1pt	52.0%	0.5pt	56.7%	6.2pt
自動車	61.5%	1.8pt	61.0%	1.5pt	62.0%	2.1pt
その他	58.5%	3.3pt	59.1%	6.2pt	57.4%	△2.4pt
合計(除く家計地震・自賠責)	62.3%	△4.2pt	61.8%	△2.8pt	62.9%	△6.0pt
(除く自然災害影響)	57.3%	0.6pt	57.8%	1.4pt	56.8%	△0.2pt

※自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※インカードロス＝正味支払保険金＋損害調査費＋支払備金積増額

※EI損害率の分母となるアーンド(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの合計から2018年度自然災害に係るキャットボンド回収額を控除したものの

この資料では、社名表示に次の略称を使用している箇所があります。

- ・ MS&ADホールディングス、持株会社 (＝MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス(株))
- ・ MS&AD (＝MS&ADインシュアランス グループ)
- ・ 三井住友海上、MS (＝三井住友海上火災保険(株))
- ・ あいおいニッセイ同和損保、AD (＝あいおいニッセイ同和損害保険(株))
- ・ 三井ダイレクト損保、MD (＝三井ダイレクト損害保険(株))
- ・ 三井住友海上あいおい生命、MSA生命 (＝三井住友海上あいおい生命保険(株))
- ・ 三井住友海上プライマリー生命、MSP生命 (＝三井住友海上プライマリー生命保険(株))
- ・ MS Amlin (＝MS Amlin plc)

### 「グループ修正利益」の定義

グループ修正利益 = 連結当期利益 + 異常危険準備金等繰入・戻入額 - その他特殊要因 (のれん・その他無形固定資産償却額等) + 非連結グループ会社持分利益

修正純資産 = 連結純資産 + 異常危険準備金等 - のれん・その他無形固定資産

グループ修正ROE = グループ修正利益 ÷ 修正純資産 (期初・期末平均)

### 予想および見通しに関する注意事項

この資料に記載されている内容のうち、MS&ADホールディングスならびにグループ各社の将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しは、現時点で把握できる情報から得られた当社グループの判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因によりこれらの業績見通しと異なる結果になり得ることをご承知おき下さいますようお願いいたします。実際の業績に影響を及ぼし得る要因としては、(1)事業を取り巻く経済動向、(2)保険業界における競争激化、(3)為替レートの変動、(4)税制など諸制度の変更、などがあります。

お問い合わせ先

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社  
広報・IR部

TEL: 03-5117-0311

URL: <https://www.ms-ad-hd.com/ja/ir/contact.html>